

人材登用の狙いは



この 河野 義行 元県公安委員(02~05年)

50年、愛知県生まれ。名城大理工学部卒。松本サリン事件被害の経験をもとに冤罪や報道被害について言論活動を展開。



かねこ まさる 金子 勝 元県特別職報酬等審議会委員(05~06年)

慶応大教授。52年、東京都生まれ。東大大学院修了。00年から現職。専門は財政学、地方財政論。

対論

田中県政とは

5 抜擢された人たち

作家時代の人脈で、県内外から人材を集める田中康夫知事。ただし、短期間で辞めるケースも多く、十分に活用できていないとの批判もあります。テレビ番組での共演が縁で、県の審議会委員を務めるなど知事のブレーンになった金子勝さん。世間を驚かせる人事で県公安委員に抜擢されながら、後に意見の対立から離反した河野義行さん。2人に聞きました。

(文中の注1~7の説明は下欄参照)

「直感を政策に」助け必要 妥協・調整なら地方破滅

「直感を政策に」助け必要 妥協・調整なら地方破滅

この直感的な射的を、きちりませぬか。当然の危惧だと思ふ。しかし、今は時代が閉塞してしまっているから、「手続き」の名の下に、妥協や調整を重ねていくのは何も変わらない。それどころか、長野県は今頃、財政破綻していったらどう。

「脱ダム」という言葉は、河野さんだから、従来の公安委員とは違う、踏み込んだ調査をしてくれると期待したのでは。公安委員に捜査権はない。警察の側にも県民の側にも立たず、厳正中立に判断するのが職責。私は知事に恥をかかせないために職責を踏み外さず、全うした。もし、知事が、「警察はひどい」との結論を私に出すことを求めたのなら、それは「法を破れ」と言っているに等しい。

最初から結論があり、登用した人間には、自分のシナリオ通りの結論を導き出すことを求める人。それができないはいっさいの対話を閉ざす。結論に到達するために法や手続を軽視してもよしとするなら、たいへん危険な発想だ。

その結論が県民の琴線に触れ、結果として県民益につながるケースもあるのでは。

地方が突きつけられている課題は「創るか壊すか」ではなく「生き残るか破滅するか」。生き残るためには、彼の直感はまだまだ使道があると思ふ。

直感といっても行き当たりばったりではない。小泉構造改革路線に抵抗し、対立軸を地方から組み立てようというスタンスは就任以来、一貫している。

東京からは長所がよく見えても、地元である人々つきあうのは大変とも聞きませぬ。

周囲とのコミュニケーション能力は低い人。「もう少し、うまく他人とつきあえよ」と感じる場面は多い。しかし今、リーダーに調整・妥協の能力や温厚な性格を求めたら地方は間違いないとされる。彼の性格はあまりあつちかたか。県民はもっとしたたかになつて、性格ではなく政策論争を巻き起こしてほしい。

知事は優秀な人材を集めすが、十分に生かせているのでしょうか。彼は直感の人。どのテーマに焦点を合わせれば、多くの人に時代の本質をわかってもらえるか、天才的な直感を把握する。「脱ダム宣言」も、私が審議会の委員になった特別報酬の問題(注1)もそうだ。しかし、直感を政策のビジョンにする知識や理論が足りない。彼の直感を理解し、足りない部分を補ってくれる人を彼は求めていない。自分以上の知識や情報

「意表を突く人材登用が知事の売りです。松本サリン事件(注4)の被疑者扱いされた私が公安委員に登用されたとき(注5)、メディアは大騒ぎだった。知事は私の家に来て「開かれた警察のために引き受けてほしい」と2時間、説得した。要請を受けたのは、拘束時間の少ない非常勤だから妻の介護と

両立できるし、私の経験が警察への提言などお役に立つ(注6)もあつちかたか。だが3年間知事と接して、彼はメディアに注目さ

注目浴びること最優先 結論ありきで法を軽視

読み、警察幹部を委員会に呼んで長時間、話を聞いた。その結果、警察は捜査の手続きをすべて踏んでおり、過失とは言えないという判断になった。

とりまとめ文書を出したら、知事はいきなり「被疑者に会いに行ったのか」と聞き、取材のテレビカメラに向かつて「説明にもならない文書」「弱い立場の人の味方をすべきではないか」と批判を始めた。私は「まず内容を読んでから、疑問点を質問してほしい」と答えたが、その後、問合わせはつぎつぎと。

知事は今の時代に何が愛されるか、人々が何を求めているか、感じ取るセンスを持っている。高い能力だと思ふ。しかし、泰草村への住民票移転問題、県議会の百条委員会でも問われた金の使い方(注7)などを見るに、おおよそは感覚の人だ。わかる。権力者が法の公正・公平な執行を軽視する姿勢がどれほどこわい。県民益とは逆の方向にはじけたらどうなるか。個人が権力と対峙するとき、守ってくれるのは法だ。松本サリン事件で、警察が私を逮捕しなかったのは「この証拠では裁判で勝てない」という判断が働いたからだ。被疑者と目された私は最後に、法と手続を守られた。為政者に何より、順法精神と公正さを求めるのはそれゆえだ。

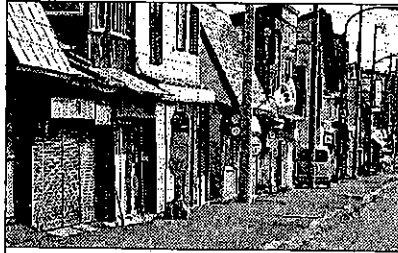
田中県政の功績はあまりなかった。県議会を劇場のようにおもしろくして、県民の県政への関心を高めた。長野は長い間、官僚出身の知事が続き、県民は政治に無関心だった。その流れを変えた点は評価すべきだろう。

2氏が取り上げた6年間の話題

(注1)05年12月に知事は「県特別職報酬等審議会」(森永卓郎委員長)を設置。知事、副知事、出納長、議員らの報酬見直しを諮問した。審議会は4回の会合の後、県議の報酬や知事の退職金を全国最低水準にまで引き下げることを答申。知事は報酬改正の条例案を今年2月議会に提案したが、審議の進め方が不公正とする議員が修正案を提案し、可決。従来の給与水準が維持されることになった。

(注2)北海道夕張市は先月20日、

財政再建団体に移行する方針を表明した。年内に指定されれば福岡県赤池町(当時)以来、14年ぶり。かつて炭鉱の町として栄えた



シャッターの下りた店が目立つ商店街＝北海道夕張市で

が、80年代から観光都市を目指し、テーマパークやホテル建設に投資して失敗。今年3月末現在、金融機関からの一時借入金を含む負債総額は約600億円に上る。人口1万3千人の約4割が65歳以上の高齢者で生活保護率も高い。

(注3)自治体の収入に対する借金返済(地方債の償還・利払い費)の重さを表す「起債制限比率」は、00年が16.4%で、岡山県に次いで2位だった。

(注4)94年6月27日深夜、長野地裁松本支部の裁判官官舎を狙って猛毒のサリンが散布された事件。7人が死亡、

約600人が重軽症。第一通報者の河野さんの関与が疑われたが、オウム真理教による犯行と判明。マスコミ各社と警察は河野さんに謝罪した。



県警の家宅捜索を受ける河野さんの自宅を報道陣が取り囲んだ＝松本市で

(注5)知事は河野さんを公安委員に任命する人事案を02年6月議会に提出、可決された。

(注6)80年3月に生坂村のダムで、会社員(当時21)が水死体で見つかった事件。当時の県警は自殺と処理したが、時効後の03年9月に他殺と判明した。捜査状況を検証した公安委員会は同12月、「過失なし」と結論。公安委員の任期が切れる05年6月、知事は河野さんを再任しなかった。県警によると、それまで、死亡や病気以外の理由で2期目に再任されなかったケースはない。

(注7)05年7月設置の県議会調査



殺害現場の生坂ダムに花束を捧げる被害者の母＝生坂村で

特別委員会(百条委)は今年2月、知事と県職員らとの会食費用を知事後援会が負担した問題を「公職選挙法に抵触する可能性が高い」と認定した。

体験・意見・提案お寄せください

県の課題や政策、知事選についてのあなたの体験や意見、感想をお寄せください(連絡先を明記)。「対論」シリーズはいったんお休みしますが、いただいたご意見などは後日、紙面で紹介したり、今後の企画に活用させていただいたりする予定です。

<電子メール>
chijisen-nagano@asahi.com
<ファクス>
026・223・7331
<郵便>
〒380・0921
長野市栗田989の1
長野朝日放送5階
朝日新聞長野総局